

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスACT（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		～ 2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動プログラムを日々職員間で立案して、様々な経験ができる。	発達に合わせたあそびづくりをしている。	保育者の発達や関する知識や療育・保育の技術向上に向けた研修などを行なっていく。
2	親子療育だから子育ての悩みを相談できる。	朝の引継ぎ、保育中、帰りの時間の振り返りで行っている。	ふりかえりの時間をより丁寧に確保する。保護者のニーズから研修を計画していく。
3	子どもたちが室内や屋外（テラス、園庭）など事業所内で活動が楽しめる環境がある。	子どもの好きなあそびに応じて環境を作って、子どもたちが気持ちよく過ごせるようになっている。	より子どもたちが安心安全に過ごせるように環境の整備や危険箇所の補修をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育園との交流機会が十分ではない。	子どもの状況によっては、大きな集団と交流することが難しい場合もある。	保育園や地域の事業所との連携を進めながら、必要に応じて子どもたちの交流ができる機会を作っていく。
2	ペアレントトレーニングの内容がより充実されるといい。	保育者が企画する研修だけでは、保護者のニーズに応えきれない場合もある。	保護者のニーズの聞き取りや必要に応じて外部講師による研修を企画することも検討していく。
3	利用人数が少ない日もあるため、集団活動が保障できない時もある。	小集団での療育をしているため、欠席などにより利用人数が少ない場合は、集団活動よりも個別な活動が主になりやすい。	利用人数に応じて、集団活動や個別活動などのプログラムを臨機応変に組み込んでいけるように職員間で立案をしていく。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					連絡ノートやコドモンを利用し、速やかな伝達ができるように努めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					保護者の方と十分な対話を行い、引き続き楽しい園生活と、適した支援がすすめられるよう努めます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		デイサービスACT (児童発達支援)		公表日		2025年 3月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされている	3				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		開所日に掃除や環境整備を実施しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		支援後に毎回、振り返りを行なっています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	1		パートスタッフへの研修計画も充実させていきます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		支援に携わる職員で担当者会を行なって、作成を進めています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している	2	1		必要に応じてアセスメントツールなども使用して、子どもの姿の捉えを深められるようにしていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		季節の行事や屋外の取り組み、室内での取り組みなどを行なっています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		基本的に6か月に1回、モニタリングを行なっています。		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3					

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	1	移行する際には、引継ぎ表を作成し移行先に送付しています。また移行後に必要時応じて訪問も行なっています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	2		対象となる児童が利用となった際には、必要に応じ行なっています。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3		同法人の保育園との交流があります。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	保護者の状況に合わせた、学習会などを計画し行なっています。	引き続き、保護者の状況に合わせた研修計画を進めています。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		行事には保護者だけでなく兄弟も参加できるようにしています。母親が交流できる機会を作っています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		毎月おたよりを発行しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		書類などは鍵付きの棚に保管しています。	
非常	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	1	行事などに地域の方の参加を呼び掛けています。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	1	定期的な訓練を行なっています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	2	1	該当する児童が利用する場合は、必要に応じて保護者に確認をしています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3			

時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	1		引き続き、計画の見直しなども行い研修や訓練を行なっていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	1		保護者にも分かりやすい方法で周知できるようにしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスACT（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年1月7日		2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		2025年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが分かる日課と自分で選び決めることができる生活・あそび。また、仲間と共にいろいろなことを経験できる。	クッキングは役割分担し、みんなで協力して作っている。また、子どもが好きな感覚的なあそびを好きなことから選び決めて、友だちと一緒にあそぶ。買い物に行ったり、遠出の公園へ行ったり、外食をしたり、地域の中でのとりくみを広げている。夏は2泊3日キャンプを行っている。	集団でのとりくみを大切にしつつ、個々の支援プログラムから丁寧に活動を進める。経験させたいプログラムを立案し、計画して行う（クッキング、買い物、外出プログラム）。
2	家族と共に行事を進めています。また、保護者研修・交流会を行っている。	子どもに経験させたいこと、家族で経験したことから、行事計画をたて、家族海水浴やバザーで出店を行っている。親同士のつながりと先が見通せることを大切に研修会と交流会を実施している。	引き続き、継続的に行事や研修を行っていく。必要に応じては個人懇談や家庭訪問などの支援につなげる。
3	要支援家庭の受入れと強度行動障害の子どもへの受け入れをしている。	家庭の状況を家庭訪問や電話等で知り、関係作りを進めながら、必要な関係機関（学校・相談支援員・他事業所）と情報共有しながら、子ども理解を深め、家族支援を進める。また、関わりで悩む子どもは担当者会議を開催し、子ども理解を深めながら、日々の関わりでいかしていることや事業所間で関わりを検討していく。	継続的に連携をとり、一步一步支援を進める。また、必要に応じて担当者会議を継続的にを行い、事業所間で子ども理解を深め連携していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの安心できるスペースが少ない。	障害の特性に応じた部屋の構造になっていない。子どもの姿から、安心できるスペースの確保が難しい。	他の部屋を活用しながら、子どもはグループや好きなとりくみで別れて、過ごします。個々で過ごす時間、集団で過ごす時間を作りながら、部屋を上手く活用する。
2	保護者研修や交流の機会が少ない。	研修を開催する場合に事業所を開所しながら行うことが難しく、企画することが難しい。	法人内の事業所同士で連携して、合同で行うなどして保護者のニーズに合わせた研修をより多く開催できるように努力していく。
3	職員研修の充実	職員の研修時間の確保が難しい。研修を受ける場合の現場の人員確保が難しい。	開催の時間や人員確保を考えていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 デイサービスACT(放課後等デイサービス)

公表日 2025年 3月 27日

利用児童

数 30

回収数 17

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	2	4		引き続き、必要に応じて対応します。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	2			日々の活動での振り返りなどで支援内容を保護者にもより分かりやすく伝えられます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1	1		個別支援計画の懇談等で丁寧に内容を捉えています。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13		4		個別支援計画の懇談等で丁寧に伝えていきます。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6		2	9		法人の社会館バザーへの参加等、実施しています。地域との交流も検討していきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	1				契約時や支援計画のモニタリング等で、改めて丁寧に説明していきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	2				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	1	3			引き続き、保護者研修を計画し実施します。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	17					学校での送迎時や帰りの送迎時に、丁寧に伝え合っていきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11		1	5		家族プログラムを通して、引き続き交流の機会を設けていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15			2		引き続き、相談や個人懇談の実施、苦情等へ迅速に対応できるように努力していきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16			1		引き続き、日々の連絡ノート、電話連絡、送迎時での引継ぎを通して、状況を
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			1		
非 常 時 等	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	1	7			個人懇談やきずなネットを利用してマニュアルの周知を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	6			訓練の実施などを保護者にも周知していきます。

の 対 応	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1		5		個人懇談やきずなネットを利用して周知を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			3		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	17					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	デイサービスACT（放課後等デイサービス）			公表日	2025年 3月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされている	5		入口の段差を埋めたり、バリアフリー化されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	部屋を区切ったり、安心できるスペースをつくる、場所を変えるなど、子どもに応じて環境設定をしている。	引き続き、できる環境の区切りの安心できるスペースを検討します。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	3		日によって入る職員が変わるため、関係する職員が参加できるように検討します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		学年会を計画的に行うことやその日のケースで振り返り、日々のとりくみにつなげます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		状況によっては他の職員に入ってもらい、評価検討をします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		支援プログラムは公表されています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		子どもと関わる職員全員が計画を理解する機会を設ける必要があると思う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2		必要に応じてアセスメントツールなども使用して、子どもの姿を捉えを深められるようにしていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2		その日の振り返り等、職員間で情報共有しながら行います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	戸外活動や室内あそび(せいさく等)などプログラムを立てています。また、季節の行事等を計画しています。	・工夫はしているが環境により固定化してしまうことが多いです。 ・どうしても子どもによって固定されてしまうときがあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			子どもの状況に応じて、書式を変えて記録をしていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	3		その日の活動、配慮点など話し合いをし、活動に向かいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3		・平日の開所日は送迎に行く職員がいるためその日の振り返りをするのが難しいのが現状です。別日や支援中に情報交換をすることがあります。打ち合わせを行う時間の確保に努めます。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎回記録をかき、月1回学年会を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	5			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		日々のおやつメニュー決めや活動内容などを一緒に決めています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		困難ケースから、相談支援に連絡し、学校・他事業所と積極的に話、子ども理解や日々のとりくみにいかしています。	
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		必要に応じた情報共有と相互理解をしています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		移行した実践がありません。必要に応じて情報提供などを行います。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	公園等では周りの子と同じ遊具で遊ぶます。	引き続き、地域の場での交流を深めます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	積極的に参加しています。	職員には参加していることを周知します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		家族行事等を計画したり、保護者研修・交流会を実施しています。引き続き、行います。
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	1		父母会はありませんが、交流会や親子行事を実施しています。
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		職員間で共有しています。	
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月おたよりを発行している。	
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
44		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1		法人としては行っているが、あまり機会としていません。引き続き、法人のイベントに出店することで交流の場を設けていきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		きずなネットや懇談会で必要なことを周知します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		計画的に行っていることや月1回訓練等を行っています。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		個人状況票に記載しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		計画は作成してあるので、職員に周知し、行っています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		きずなネットや懇談会で必要なことを周知します。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修を行っています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			